

# シリーズ 石見銀山<sup>35</sup>

## —温泉津の町並みと整備事業3—

湯乃街線の調査では16世紀後半を中心とする遺物が多く見つかかり、当時の温泉津の賑わいぶりが明らかとなってきました。今回は発見された遺物から当時の温泉津を取り巻く歴史的背景について考えてみたいと思います。

左下の写真は「天目」とい、「茶の湯」の席で好まれた焼き物です。「茶の湯」は現在の茶道の源流となるもので、特に時の支配者《豊臣秀吉》がこれを好んだといわれています。

当時の石見銀山は秀吉の管理下にありましたが、秀吉は銀山で産出する豊富な銀を背景として朝鮮半島に「文祿・慶長の役（1592ー1598）」と呼ばれる出兵を行っており、この出兵後に朝鮮から連れ帰った職人は、その後の日本の製造業に大きな変革をもたらしました。特に陶工と呼ばれる職人は唐津焼や萩焼などに影響を及ぼしたといわれていることから、この出兵のことを「やきもの戦争」と呼ぶこともあります。

また、湯乃街線の調査で見つかった遺物をみると、佐賀県にある「名護屋城陣跡」で見つかった遺物と似ていることが指摘されています。

「名護屋城」は秀吉が朝鮮出兵の拠点としていた施設で、場内からは茶器をはじめ、当時生産が開始された漳州（中国南東部、現在の福建省付近）周辺で作られた焼き物が多く発見されています。

温泉津で見つかった焼物もこの漳州付近で作られた焼き物も多く、温泉津の繁栄は石見銀山の銀生産のみならず、朝鮮出兵に際し、この軍事物資の輸送や九州北部との交易にも目を向ける必要があるようです。

全3回のシリーズを通して湯乃街線の調査に至る経緯や、出土した遺構、遺物について解説してきましたが、出土した遺物から温泉津の港町が形成された以後の繁栄が明らかとなったほか、現在の温泉津の町並みの成立を考えるうえで重要な遺構がみつかかり、大きな調査成果が得られました。発掘調査報告書などにより、港町であった温泉津の歴史像がより具体的にたることが期待されます。

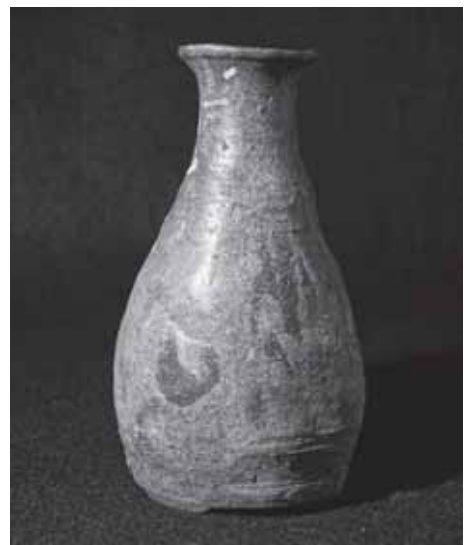
### ●お問い合わせ先

大田市役所石見銀山課

☎0854-18318132



湯乃街線の調査で見つかった天目  
(美濃焼 16世紀後半～17世紀)



湯乃街線の調査で見つかったとっくり  
(朝鮮産 16世紀後半)